

株式会社アルプロン

水稻栽培における中干期間延長
取組紹介



島根県雲南市にある「プロテインメーカー」



全国 約1万店舗で当社製品を取り扱い



くすりの福太郎



なぜ？

**プロテインの会社が
「農業のカーボンニュートラルを行うのか？」**

当社が対峙する社会課題

< プロテインクライシス >

2030年
「たんぱく質」の需要と
供給のバランスが崩れる。



< カーボンニュートラル >

2030年
温室効果ガス50%削減

2050年
脱炭素社会の実現

2024年

1月

**社内に農業/酪農分野のカーボンニュートラル化
を促進する「専門チーム」発足**

2月

農家さんに対し「説明会開始」

4月

**雲南市と「農業/酪農分野における脱炭素化」
及び「J-Credit創出」に関する協定締結**

4月

雲南市の協力のもと「水稻栽培における中干期間延長プロジェクト」参加者が内定

* 20農業法人 + 18個人

* 210ha

(雲南市155ha 奥出雲町45ha 飯南町10ha)

* こしひかり、きぬむすめが中心

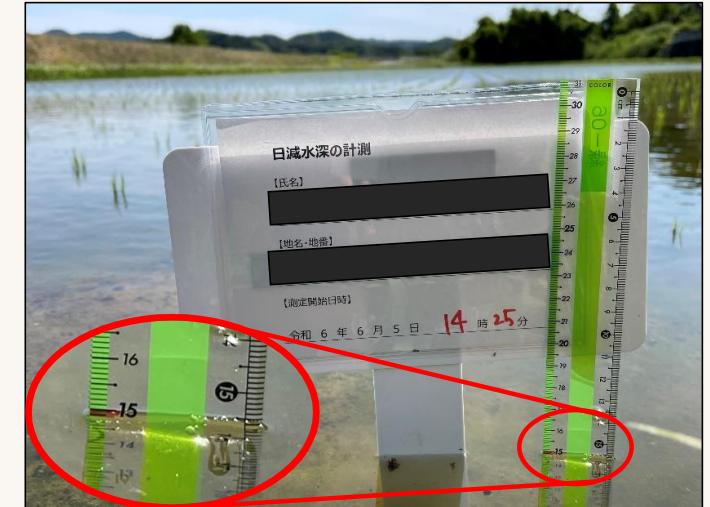
4月

排水性の測定

* ものさしを活用

* アナログ的な計測は手軽さ

⇒ 将来的にはデジタル化を検討



5月

田植え

6月

中干期間延長の実施

- * 開始日の前に農家さんと当社で撮影場所/方法の確認
- * Lineやメール等で写真データを送信



7月

データ取りまとめ

9月

プロジェクト登録準備及び申請

- * 審査機関3社に見積もり依頼
- * 2社より見積もり返答
- * 当社と相性の良さそうな審査機関と契約
- * 島根(当社本店)にて審査機関による審査
- * 半日程度の審査
- * 審査書類作成難易度：低

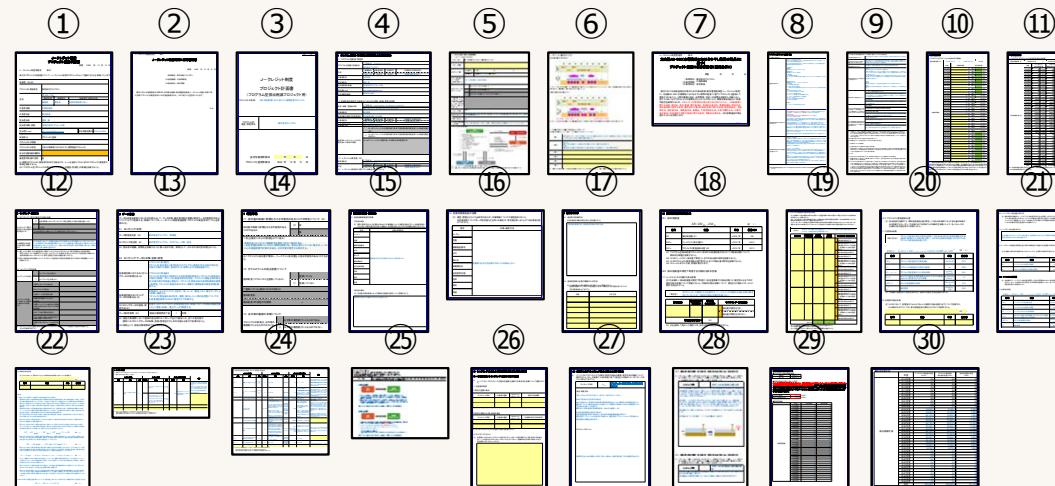
10月

プロジェクト登録完了

12月

妥当性確認審査準備及び審査

- * プロジェクト登録と同じ審査機関と契約
- * 島根(当社本店)にて審査機関による審査
- * 半日程度の審査 (書類に関する質問と現地確認)
- * 審査書類作成難易度：高



2025年
3月

第64回J-クレジット審査委員会に書類提出
* 12月の審査機関による保証を付け申請

メタンガス削減量：385t-CO₂

参加した農家の声

- ① 猛暑の要因である温室効果ガスの削減、興味はあったがやり方がわからなかつた
今回参加して、今までの延長線上にあるやり方なので簡単にできた
環境改善に参加でき嬉しかった！
- ② アルプロンの担当者が頻繁に情報提供してくれたので、やりやすかった
→島根に本プロジェクト専属社員2名配置し農家さんとコミュニケーションを頻繁にとる体制
- ③ 中干期間延長で栽培したお米に付加価値のつけ方と一緒に考えていただいた
→アルプロンは農家さんと一緒に「出口戦略」を考えます

本プロジェクトでフォーカスしたポイント

**環境配慮
(GHG削減)** × **収益倍増
(農家さん)**

2023年度(2023年4月～2024年3月)を基準年とし、5年で倍増を目指す
お米の出口戦略だけでなく、農業アセットと企業ニーズをマッチングさせることで、
収益UPにつなげていく予定

サプライチェーン内で協力体制の構築を目指す

